

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③情03-10-5/5）

目 的

文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。

成 果

1) 資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、1) インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、2) 劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のCD-ROM化をすすめ、本年度は京都市美術館の協力を得て、双方の所蔵する「汎工芸」「美観」をあわせてCD-ROM化の準備を進めた。3) 国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議ならびにシステムの改変を行った。さらに、4) 『東京文化財研究所蔵書目録8 漢籍』を刊行した。

2) 画像情報室

他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。06年度より文化遺産国際協力センターの協力を得て進めていた尾高鮮之助撮影フィルムのデジタル化を完了した。通常フルカラー画像撮影件数6091件、特殊画像撮影件数1583件（デジタル画像撮影の全体に占める割合100%）

3) 企画情報部にて作成・更新中のデータベース

標記のデータベースには以下の37種がある（作成件数28761件、収録件数973420件、公開件数952909件）。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 所蔵和漢書（～09） | 20) 展覧会（03以降） |
| 2) 受入和漢書（10年度分） | 21) 近現代作家名 |
| 3) 所蔵洋書 | 22) 近現代展覧会開催情報（43以降） |
| 4) 所蔵簡易図書 | 23) 写真原板 |
| 5) 売立目録 | 24) キャビネット写真 |
| 6) 所蔵美術館博物館収蔵目録 | 25) 古美術文献目録（明治～66） |
| 7) 和雑誌誌名 | 26) 近現代美術文献目録（35～90） |
| 8) 所蔵洋雑誌誌名 | 27) 美術館博物館名 |
| 9) 所蔵中国雑誌誌名 | 28) 東京文化財研究所年表 |
| 10) 所蔵韓国雑誌誌名 | 29) 美術研究総目次 |
| 11) 所蔵和雑誌巻号（～03） | 30) 撮影調査票 |
| 12) 所蔵洋雑誌巻号（～05） | 31) 古美術展覧会開催情報（43以降） |
| 13) 所蔵和雑誌巻号（02以降） | 32) 物故者記事 |
| 14) 所蔵洋雑誌巻号（06以降） | 33) 美術懇話会 |
| 15) 所蔵中国雑誌巻号 | 34) 開所記念展覧会出品目録 |
| 16) 所蔵韓国雑誌巻号 | 35) 美術家美術関係者情報 |
| 17) 所蔵地方公共団体刊行報告書 | 36) 画廊情報 |
| 18) 所蔵香取秀真資料関係 | 37) 美術史論壇 |
| 19) 展覧会（02まで） | |

③資料作成・公開 Area16

4) インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース
標記のデータベースには以下の15種がある。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 美術関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 10) 美術関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 11) 『保存科学』 所載文献 |
| 4) 売立目録 | 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献 |
| 5) 展覧会カタログ | 13) 『美術研究』 総目次 |
| 6) 和雑誌 | 14) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 7) 写真原板 | 15) 伝統楽器情報 |
| 8) 美術家・美術関係者資料 | |

5) 図書受入数

和漢書764件、洋書33件、展覧会図録・報告書等4174件、雑誌1893件（受入総数6864件）
37種の目録所在情報

6) 資料閲覧室の利用状況

公開日総数135日、利用者年間合計1017人

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、
中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-10-5/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

本年度は、これまでに蓄積されてきた資料に加え、平成17年度までに寄贈を受けたアナログテープの媒体転換を中心に実施した。とくに、新たに受入れが完了した音声記録に関しては、これまでの資料を補完する分野に重点を置き、デジタル化を進めると同時に、デジタル化音声資料へのインデックス付与も行った。また、無形文化遺産部に平成20年度に寄贈された歌舞伎舞台写真の整理を行い、調査の完了したモノクロネガに関しては所蔵一覧を公表した。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、菊池理予、金子健、綿貫潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）